

「たまらなく嬉しいもの」

県立神戸高等学校長
新谷 浩一

○ 中学校の校長先生方に教わったのです…

昨夏、ひとりで近隣の中学校を訪問させていただきました。全部で 21 中学校。学校案内のパンフレットを持参しましたが、広報活動をしたかったわけではありません。校長先生方とお会いし、現在の中学生がどのような学校生活を送っているか、神戸高校に進学した生徒は中学校の先生方の眼にはどのような姿に見えるのか等、私自身、学びたい気持ちがあったのです。そして結果として、新たな発見がいくつかありました。

夏場は体操服での登校を推奨する中学校が少なくありませんでした。その時に思い出したのは当時の協議会議長です。彼は「夏休みに部活動のために登校する運動部員には、部活動の格好での登校を認めてほしいです」と校長室に話をしに来たのです。しかも何度も。「これまで先輩方もこうしたお願いをしてきたのですが、今までは認めてもらえていなかったんです」そう話してくれます。それでもここ数年の暑さは異常です。

そこで先生方にも理解をいただき、神戸高校の伝統に小さな風穴をあけ、部活動姿での登校が認められる日が昨年度に誕生したのは2、3年生の皆さんがご存じの通りです。「どんなに気温が上がろうと、神戸高校生となった限りは必ず制服を着用して地獄坂を登るべし」と伝え続ける気象状況ではないと判断したのです。

発見はもうひとつ。今秋から中学校を離れ、地域移行される部活動のことで。その結果、先生方の時間外勤務は減少するとされ、それはメリットだと認識しながらも、多感な時期に先輩とともに何かに打ち込み、その姿に憧れたり、後輩に何かを伝えたり、そのような経験が減ることを私は勿体ないと思っていたのです。

でも、複数の校長先生から教えていただきました。「もうひとつ残念なことがあります。成し遂げて、嬉しくてたまらない歓声をあげたり、悔しくて泣いたり、そういう経験が確実に中学校から減るんです。私たちは見られないのです。もちろん日々の授業でそれができたらいいのですが…」との話。強く心に響きました。



先週、私は馬事公苑にいました。兵庫県高校総体の馬術競技です。松井先生が大会委員長を担っている関係で、私は大会会長。竹内先生がいて、橋井先生がいて、澁川先生がいて…。大会運営をサポートしてくれる兵庫県馬術連盟の方や神戸乗馬倶楽部の方々を除けば、スタッフの殆どが神戸高校の先生方です。

5人の乗馬姿を見せていただきました。ある保護者の方から問われます。「こんなに多くの先生方に来ていただいて、学校は大丈夫なんですか」と。でも、神戸高校の先生方がともに汗を流してくれるからこそ、この大会が実施できるんですよね。

「学校長はスクールミッションに基づく本校の教育方針を広く伝えてください」この春、本県教育長は私たち校長を前にそう仰いました。右側の図はこの春、私が本校の先生方にお願ひした教育活動の方針です。

こうした思いがあるからこそ、私たちは部活動も支えています。本校の部活動加入率は 118%。日々成長していく魂に触れられるのは教職員にとって至上の喜びなのです。

兵庫県立神戸高等学校

令和8年度 教育活動の方針

スクールミッション

「質素剛健 自重自治」の理念のもと、何事にも積極的に挑戦し、自ら鍛え、厳しさに耐え抜く意思と実践力を備え、未来への道を切り拓きつつ、社会の有為な形成者として国際社会で活躍できる人材を育成する



思考・判断・表現

「好奇心を大切に」
「生徒が自主的に取り組む環境を維持する」
「自らの思いを言語化する機会を多く設ける」

主体的に取り組む態度

「何事にも積極的に取り組む姿勢を育む」
「一見、困難に思えることを課していく」
「周囲の人と繋がる力と周囲の人を巻き込む力を身につけさせる」

知識・技能

「高等学校で学ぶべき基礎・基本の定着と応用力の育成をめざす」
「外国語を含め、コミュニケーション能力の向上をはかる」